

「三重県 心のノート」活用事例

校種	小学校	学年	6年	内容項目	2－(5)
主題名	感謝しそれにこたえ、社会のために進んで働く				
資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々に支えられ、私たちの今がある 木曾三川と治水 「三重県 心のノート 小学校5・6年」(三重県教育委員会) ・風雲児たち「リイド社《SPコミックス：みなもと太郎》」 				
ねらい	<p>たくさんの人たちの努力によって、自分たちの生活が支えられていることを知り感謝するとともに、自分にもできることは何かを考える。</p>				
展開	学習活動と主な発問			指導上の要点	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 木曾三川について知る。 (発問)「だれが、今のような形に変えたのでしょうか。」 2 資料を読み、薩摩藩士の思いを考え合う。 (発問)「故郷から遠く離れた土地で工事に向かう時、平田靱負はどのようなことを考えていたのでしょうか。」 3 工事を見守る地元の人たちの思いを考える。 4 中里小の校区にも、昔の人たちが作ってくれた「三郷井水」があることを知る。 			<ul style="list-style-type: none"> ・現在の写真と治水工事前の木曾三川の地図を提示 ・自分の考えを持ちプリントに書く。その後ペアそして全体で意見を交流して考え合う。 ・前学年で学習した「三郷井水」の写真や地図を提示 	
他の教育活動との関連	<p>これまで、4年生社会科「くらしを高める開発」で、地域の井水について、5年生社会科「低い土地でのくらし」で、木曾三川について、5年生理科「流れる水のはたらき」について学習している。</p> <p>また、「花づくりの学校」である中里小学校は毎年5年生が中心になり、全校児童で花づくりに取り組んでいる。土づくり・種まき・苗植え・花壇デザイン・肥料や水やり等に取り組み、地域の方、老人ホーム、独居老人、保育園等に花を届け、花を通して交流を深めている。</p>				
成果と課題	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生(輪中の里)、5年生(木曾三川公園、治水神社)での社会見学で学習したことをもとにして、考え合うことができた。 ・理科で「流れる水のはたらき」を学習したこと、また、9月の大雨の時に学校近くの川の様子を目の当たりにしたこと等を通して、水の恐ろしさについてイメージを持ちながら学習を進めることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史を学習していないので、時代背景がわかりづらかった。 ・薩摩藩士や地域の三郷井水を作った昔の人々の偉業に感謝の念は持つことができたが、これからの自分の行動に反映させていくための、教師の支援や見守りが引き続き必要である。 				

<児童の感想>

- ・ 昔の人が苦勞してやってくれたおかげで、私がこうやって暮らせているので、昔の人に感謝しなければいけないなと思いました。昔の人たちは自分たちの犠牲をはらって他の人を助けに行ったりしていて、とてもすごいなと思いました。私も見習わなければいけないなと思いました。私もこんな大きな工事とかはできないけど、人が困っていたりしたら助けられるといいです。
- ・ 昔の人は、遠いところまで行ってまで「同じ日本に住む人」を守ろうという勇気があってすごいと思いました。それに、昔の人の行動があるから、今私たちは平和に生きていられるから、昔の人に感謝したいと思いました。私も昔の人の行動や勇気を見習いたいと思いました。
- ・ 昔の人が地元をはなれて遠いところまで工事をしに来たから、今の木曾三川はあると思います。だから自分もいろんな人に手を差し伸べられる人になりたいです。
- ・ 前は知らなかった長尾の三郷井水のこと、前は流れていなかったんだということがよくわかりました。他にも遠いところからわざわざやってきて工事をするなんてすごいと思いました。
- ・ 僕は、今日の授業で、昔の人はすごくがんばって工事をしてくれたおかげで、今も水害がなくて平和に暮らしているから、昔の人にすごく感謝しています。
- ・ 木曾三川と治水の授業をして、最初、平田靱負さんはすごく悩んでいて、「同じ日本に住む人々が困っているのを救いたい。」と思い、行ったのがすごいと思いました。苦勞などいっぱいあるのにみんなを救いたいという思いがあるし、みんなも一生懸命していたことが文章でも伝わってきました。
- ・ 木曾三川は昔のいろいろな人の努力があって、今の形になっているのだなと思いました。

<板書>

木曾三川と治水

・ 工事に向かうときの平田靱負の気持ち

- ・ 多くの犠牲者が出ている。
- ・ 幕府にゆるしてほしい。
- ・ 同じ日本に住む、困っている人を助けたい。
- ・ 断れば大変なことになる。
- ・ 工事をする人たちは「みんなを救いたい」という気持ちがあるから、私も行く。
- ・ 断れば幕府にビリッパされる。
- ・ 費用もかかるし、犠牲者もたくさん出る。



・ 治水工事の様子を見た当時の人々の気持ち

- ・ 僕たちも何かしたい。
- ・ これで水害が少なくなる。
- ・ ふるさとを離れ、体をばて、工事してくれてありがとう。
- ・ うれしい、ありがたい。
- ・ これで安心だ。